

製品安全データシート

作成日 2001年3月1日
改定日 2016年3月1日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名: エポボンド1CH
整理番号: 製安-IV-501-02
会社名: アオイ化学工業株式会社
住所: 広島市安佐南区相田1丁目1-26
電話番号: 082-877-1341
FAX番号: 082-879-7260
推奨用途および使用上の制限: 土木構造物等の充填材、接着剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性		区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	分類対象外
	急性毒性(吸入:ガス)	区分外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2
	呼吸器感受性	分類できない
	皮膚感受性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分外
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分外
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分2

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報

・皮膚刺激
・強い眼刺激
・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
・発がんのおそれの疑い
・長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き:

《安全対策》

・使用前に取扱説明書を入手すること。
・全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
・取扱い後は汚染箇所を石鹼等でよく洗うこと。
・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
・環境への放出を避けること。
・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

《応急措置》

- ・皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着している場合に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
- ・特別な処置が必要である。(この SDS の 4. 応急処置を参照。)
- ・医師の診断／手当を受けること。
- ・皮膚刺激または発しん(疹)が生じた場合：医師の診断／手当を受けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぐこと。そして再使用する場合には洗濯をすること。
- ・漏出物を回収すること。

《保管》

- ・施錠して保管すること。

《廃棄》

- ・内容物/容器を法令に従って適切に廃棄すること。

3. 組成、成分情報物質

単一製品・混合物の区分： 混合物

化学名又は一般名： 特殊エポキシ変成系弾性接着剤

主な成分および含有量：

成分名	CAS番号	化審法番号	含有率(%)
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	25068-38-6	7-1279	1.0～10
酸化チタン	133463-67-7	1-558	1.0～10
スズ化合物	社外秘	社外秘	1.0 未満

4. 応急措置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。
直ちに医師に連絡し、医師の手当、診断を受ける。
呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸(又は、酸素吸入)を行う。
- 皮膚に付着した場合： 多量の水と石鹼でよく洗う。
付着物を布にて拭き取る。
外観に変化が見られたり、かゆみや炎症がある場合には専門医の手当てを受ける。
- 目に入った場合： 直ちに清浄な多量の水で最低 15 分間洗い流した後、速やかに専門医の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- 飲み込んだ場合： 水で口の中を良く洗い、医師の診察を受ける。
無理に吐かせてはならない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
- 最も重要な兆候および症状： 有用な情報なし

5. 火災時の措置

- 消火剤： 粉末ドライケミカル、乾燥砂、二酸化炭素、泡消火剤
- 使用してはならない消火剤： 情報なし
- 特定の消火方法： 火災が広がったときは大量の噴霧水で消火する。
消火活動は可能な限り風上から行う。
可燃性のものをすばやく周囲から取り除く。

消火を行う者の保護： 消火者は必ず適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置： 曝露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。
付近の着火源、高温体および付近の可燃物をすばやく取除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。

環境に対する注意事項： 漏出液を下水や側溝等に流してはならない。
少量漏出の場合にはウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。
大量漏出の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。

局所排気・全体換気： 局所排気装置、全体排気装置のある換気の良い場所で取り扱う。

注意事項： 保護具を着用して作業する。
取扱い後は手洗い等を十分に行ない、衣服に付着した場合は着替える。

保管

保管条件： 幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避ける。
火気、熱源から遠ざける。
通風を良くし、ガス又は蒸気が滞留しないように容器を密閉して保管する。

8. 曝露防止および保護措置

管理濃度： 設定されていない

許容濃度： 日本産業衛生学会 1.0mg/m³(酸化チタン)
AGCIH 10mg/m³(酸化チタン)
TWA 0.1 mg/m³、STEL0.2 mg/m³(スズとして)

保護具

呼吸器の保護具： 有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。

身体の保護具： 密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具： ゴム手袋を着用する。

眼の保護具： 保護眼鏡を着用する。

設備対策： 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものを置かないような設備とすること。
密閉場所で作業する場合には、局所排気装置を取り付けること。
防災シャワー、手洗い、洗眼設備を設置する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など： ペースト

臭い： 特異臭

融点、凝固点： データなし

引火点： >100℃

相対密度： データなし

蒸気圧： データなし

蒸気密度： データなし

臨界温度:	データなし
臨界圧力:	データなし
オクタノール/水分配係数:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
爆発熱:	データなし
爆発限界:	上限/下限ともデータなし
溶解性:	水に難溶

10. 安定性および反応性

反応性:	データなし
安定性:	通常状態で安定
有毒性反応の可能性:	データなし
避けるべき条件:	高温多湿な場所での保管
反応性:	データなし
相溶性物質:	データなし
有毒分解生成物:	データなし

11. 有害性情報

急性毒性

経口:	LD50	11400mg/kg (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)
	LD50	>20000mg/kg (酸化チタン)
	LD50	44.9mg/kg (スズ化合物)
経皮:	LD50	>10000mg/kg (酸化チタン)
吸入:		データなし

皮膚腐食性・刺激性: 区分 2 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)

眼に対する重篤な損傷・刺激性: 区分 2B (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂、酸化チタン)
区分 2A (スズ化合物)

呼吸器・皮膚感作性: 区分 1 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)

生殖細胞変異原性: 区分外

発がん性: 区分 2B (酸化チタン)

生殖毒性: 区分 2 (スズ化合物)

特定標的臓器毒性(単回暴露): 分類できない

特定標的臓器毒性(反復暴露): 区分 1 (肝臓、腎臓) (スズ化合物)

吸引性呼吸器有害性: 分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性): 区分 1 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂、スズ化合物)

水生環境有害性(慢性): 区分 1 (ビスフェノール A 型エポキシ樹脂、スズ化合物)
区分 4 (スズ化合物)

オゾン層への有害性: 分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適性に処理する。

汚染容器・包装: 内容物を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

陸上規制： 消防法、道路法等に定められている運送方法に従う。
海上規制： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空規制： 航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類： なし
国連番号： なし
容器等級： なし
梱包方法： なし
海洋汚染： なし
特定の安全対策： 転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

15. 適用法令

消防法： 非危険物
労働安全衛生法： 通知対象物質：酸化チタン、すず及びその化合物
変異原性化学物質：ビスフェノール A 型エポキシ樹脂
船舶安全法： 該当しない
航空法： 該当しない
化学物質管理促進法： 該当しない
毒物および劇物取締法： 該当しない

参考文献

1. 「産業衛生学雑誌」(2008/9) 日本産業衛生学会
2. 「TLV and BEIs」 ACGIH
3. GHS分類結果データベース 独立行政法人 製品評価技術基盤機構

※ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行って下さい。